

## 延岡南道路無料化を求める意見書

公共交通機関の利便性が低く、自動車に頼らざるを得ない本県にとって、道路は、県民の日常生活を支えるとともに、緊急搬送など命をつなぐための「命の道」としても、非常に重要な地域社会の基盤となる社会資本である。

本県の北部に位置する延岡市から門川町を結ぶ延岡南道路は、国道10号の慢性的な交通渋滞を解消するため、将来的には東九州自動車道の一部を形成する自動車専用的一般有料道路として平成2年に整備されたところである。

しかしながら、距離に対する料金の割高感もあって利用者が伸び悩んでおり、国道10号の渋滞緩和につながらない状況となっているほか、当該国道やこれに平行する県道を通学路として利用する児童生徒等の安全な通行を確保する観点からも、沿線自治体を中心に繰り返し無料化を求める提言を行っていたところである。

このような中、平成22年6月には高速道路の無料化社会実験がスタートしたが、実験開始後の交通量は全国でもトップクラスの伸び率を示し、物流や人の交流に大きな効果が見られたところであり、また、国道10号の土々呂地区では交通量が約35%減少し渋滞緩和が図られ、歩行者の安全性確保や防災・緊急医療などにおいても地域住民の生活に多大な貢献を果たした。

東日本大震災の復興費用確保のため無料化社会実験を凍結したことには理解を示すものの、延岡南道路は、地理的な制約などから国道10号の大幅な拡幅が困難なこともあってバイパス道路として整備されたものであり、無料化実験前の相当以前から沿線自治体を中心に無料化の提言がなされてきたことを鑑みた場合、その無料化は、国が進めようとしていた高速道路無料化の延長線上にあるのではなく、別個の政策として考えることが適当である。

よって、国においては、延岡南道路無料化について、特段の措置を講ずるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年3月22日

宮 崎 県 議 会

衆議院議長	横路孝弘	殿
参議院議長	平田健二	殿
内閣総理大臣	野田佳彦	殿
財務大臣	安住淳	殿
国土交通大臣	前田武志	殿
内閣官房長官	藤村修	殿
国家戦略担当大臣	古川元久	殿